

令和2年度 都城市立丸野小学校 学校運営協議会委員評価書

学校経営ビジョン	21世紀を担うにふさわしい知・徳・体の調和のとれた人間力あふれる児童を育成するために、職員が「チーム丸野小」として団結し、学力向上を重要課題として捉え、全力で教育活動を展開していく。「認め・褒め・支え、鍛える」中で、「心身ともに健康でたくましく、自ら学び自ら考える子どもの育成」と「地域に信頼される学校づくり」を目指す。								
学校の教育目標	心身ともに健康でたくましく、自ら学び自ら考える子どもの育成								
めざす児童像	お 思いやりのある子ども		か 考える子ども		け 元気な子ども				
重点目標 (経営ビジョン)	1 分かる・できるの実現と基礎学力の向上を図る。 2 生徒指導の徹底を通して豊かな人間性の育成を図る。 3 健康安全教育の徹底を通して体力の向上を図る。 4 特色ある教育の推進を通して、地域に信頼される学校づくりを図る。				※ 評価の基準 4 …期待以上 3 …ほぼ期待通り 2 …やや期待を下回る 1 …改善を要する				
評価項目 (重点目標)	手段・ゴールイメージ		自己評価の結果(4段階)			学校の自己評価(成果と課題)	学校運営協議会委員の評価		改善策
			職員	保護者	児童		評価	意見等	
1 分かる・できるの実現と基礎学力の向上を図る。	1 「もっと楽しくもっと分かりやすい授業」を目指す。CRT テストの平均得点率(丸野小-全国)の差を前年より縮める。	3.2	3.3	3.8	・ 全国との比較では、国語科が4つの学年、算数科では5つの学年で全国平均を上回っており、経年変化をみても全国との差を縮めることができた学年が多く、授業改善の成果がでてきている。	3.5	<ul style="list-style-type: none"> 授業参観では、先生方の授業に対する取組の姿勢や、一人一人の児童に対して真剣に向き合われ誠意をもって授業されている姿勢が素晴らしい。 感染症対策をされながらの授業は大変だと思います。 ICTの活用をしていただきたいと思います。 先生は子ども一人一人に目を配り、しっかり指導されていると思います。 各学級とも、生き生き、のびのびと学習をしていると思います。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍での相互研究は難しい面があることから、ICTの活用等を通じた工夫を行っていききたい。 再び臨時休業となった場合を考え、予習につながる課題や家庭学習の進め方ができるよう、課題の在り方を考えていく。 今後は、読書意欲の向上につながる手立ても工夫していきたい。 	
	2 主題研究で「授業づくり」について、志和池・白雲中学校区とも連携しながら研修を深め、教師の授業力向上を目指す。	3.2			・ 各学年の課題に応じた授業づくりを研究し、成果や課題を日々の授業に生かすことができた。しかし、新型コロナウイルス感染症対策の影響で、中学校区での相互研究の設定が難しかった。	3.4			
	3 家庭学習のさらなる充実と工夫、習慣化を図る。	3.0	3.0	3.5	・ 本年度は、臨時休業期間中に、家庭で自主学習する機会が多く、学校からの課題が児童にとって適切な内容や量になるように、試行錯誤をしながら行った。	3.4			
	4 読書活動の推進に努め、各学年の平均貸出し目標冊数を上回る。	3.0			・ 臨時休業や密を避けた図書館利用であったが、2学期から昼休みの図書貸出を学年ごとに割り振ることで貸出冊数が徐々に増え、おおむね目標冊数の達成が図られた。				
2 生徒指導の徹底を通して豊かな人間性の育成を図る。	1 基本的な生活習慣を定着させ、きまりや約束を守る態度の育成を図る。	3.0	3.5	3.4	・ あいさつや廊下歩行、整理整頓など基本的な生活習慣の定着は図られているものの、登下校のきまりを守れない事案が数件発生した。	3.8	<ul style="list-style-type: none"> 登下校中の交通のルールをよく守り意識も高いと思います。上級生が下級生に優しく接して素直に成長しているのだと感じる。 前年度の改善策の中で「よいこのやくそく」の中に1日のゲーム時間についてありましたが現在の状況はどうなっているのでしょうか。 あいさつが良く、学校内の整理整頓が良くできています。 ボランティアの方の読み聞かせを楽しみこしでいて、聞く態度も素晴らしいです。 	<ul style="list-style-type: none"> 地区別集会で、登下校についての指導の徹底を図り、登校班長や副班長の指導を行う。 来年度も、新型コロナウイルスの影響を受け、制限されることが予想されるが、体験活動を精選し、実施方法を工夫するなどして取り組ませるようにする。 新型コロナウイルス感染症対策に係る臨時休業によって、基本的な生活習慣が乱れ、学校再開後も生活のリズムが戻らないといった状況が見られる児童がおり、家庭と連携して対処していく必要がある。 	
	2 各種体験活動を通じた、自主性や自立、協調性の醸成を図る。	3.0	2.9	3.5	・ 新型コロナ感染症対策の影響により、校時程の変更や行事のカットが行われたため、各種体験活動を行う機会が大幅に減らざるを得ない状況となった。	3.4			
	3 積極的な生徒指導の機能を生かした、学級経営を行う。(自己肯定感、自己有用感の育成、自己決定の場の自主的行動の習慣化)	3.2	3.5	3.2	・ すこやかアンケートをもとに教育相談を行い、問題行動等の早期発見、早期解決に努めることができた。スマホやゲームについての家庭でのきまりを作成し、啓発を図ることができた。	3.9			
	4 読み聞かせや読書活動の日常化を通して、豊かな感性の醸成を図る。	2.9	3.0	3.3	・ 読書を通じて、本のおもしろさや感動を味わい、読書感想文や感想画等への取組を通して、豊かな感性の醸成を図ってきたことにより、児童の作品が県のコンクールに入選することができた。	3.3			
3 健康安全教育の徹底を通して体力の向上を図る。	1 「自分の命は自分で守る」態度と能力を育成する。(危険予知能力、回避能力の育成、感染症に対する取組)	3.0	3.4	3.7	・ 新型コロナウイルス感染症をはじめ様々な病気を予防するために、必要な知識や態度を養うことができた。	3.6	<ul style="list-style-type: none"> 給食後の歯磨きが家庭での歯磨き習慣にもつながるといえると思う。 自らの命を守る行動については、突然の風雨や水難事故、火災、地震など多くのことを訓練されているので素晴らしいと思います。それが、子ども達にしっかりと身に付いていると思います。 	<ul style="list-style-type: none"> 志和池地区全体として、児童・生徒の柔軟性に問題があることから、効果的な柔軟運動を紹介し、教科体育の時間を活用し取り組む。 業間活動の設定が来年度はないため、ランニングや縄跳び運動を、体育の時間に積極的に取り入れながら体力の向上を図り、コロナ禍の中での外遊びなどについても、対応を考えていきたい。 う歯治療率の向上を図るために、持続的な治療の勧めを呼びかけながら、学校歯科医と連携し、根本的なむし歯予防の必要性を保健便りなどで啓発する。 	
	2 体力の向上に係る課題に基づく取組を行う。(業間活動の充実と工夫、運動の日常化への取組)	2.3	3.3	3.6	・ 業間活動については、感染症対策のため持久走以外は実施できないことが多かった。しかし、冬休みには、柔軟運動を中心とした体力向上カードを配付し、家庭での運動の推進に取り組むことができた。	3.3			
	3 家庭と連携しながら、基本的健康習慣の定着及び食育の推進を図る。(早寝・早起き・朝ご飯・朝ウチの習慣の定着、「弁当の日」の取組、ノーメディアデーの取組)	2.9	3.2	3.5	・ 長期休業明けにチェックカードを配付したことで、家庭の意識も高まり、生活習慣を整えることにつながった。	3.4			
	4 う歯治療率のさらなる向上を図る。	2.7	3.4	3.5	・ 保健便りや学期毎の治療勧告カード、長期休業中の「歯磨きカード」を通して、家庭への啓発を図ることで、治療率が徐々に上がってきている。学年に応じた治療の必要性を意識させていきたい。	3.5			
4 特色ある教育の推進を通して、地域に信頼される学校づくりを図る。	1 丸野小学校運営協議会を一層活用して、地域と共にある学校づくりを推進する。	2.8			・ 新型コロナウイルス感染症対策のため、学校周辺の施設等への訪問や交流がほとんどできず、代替の方法も難しい状況があった。	3.9	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症対策のため、本来の交流ができないこともありましたが、できることを工夫、実施され、地域や関係機関の方々とも連携をとられ運営がなされていたと思います。 新型コロナウイルス感染症対策で地域との交流が難しく、ボランティアの方の高齢化もあるので見直しが必要だと思っています。 ホームページや学校だよりで、学校の様子などが地域に発信され、校区の方に伝わることで地域と連携がよく図られている。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスによる影響と地域の協力者の高齢化により、各行事に協力をいただくのが困難になっている。活動内容の見直しや方法の工夫などが必要である。感染の状況を見ながら、臨機応変に対応できるよう、事前の協議を念入りに行っていく。 年間の行事や教科内容を見通しながら、新たな連携の在り方について、各職員が学年や校務に応じて計画を積極的に行う。 行事等だけでなく、日常の児童の活動や生活の様子も情報として発信していく。 	
	2 地域の素材・人材・施設活用の工夫を図るとともに地域人材の発掘を推進する。	2.7	3.3	3.8	・ 屋外の活動については、地域人材を活用し、芋ほりや収穫祭、伝統行事の体験を行うことができた。	3.6			
	3 学校便りの発行及びHPの更新で、学校・児童のよさや活躍を定期的に家庭・地域に発信していく。	3.1	3.5		・ 毎月一回「学校だより」を発行し、保護者への配付とホームページに掲載を行った。また、学校の教育活動の様子もホームページにアップし、地域への発信に努めることができた。	3.6			
	4 関係機関、各地域役員との積極的交流と連携を一層図る。	3.0	3.3		・ 新型コロナウイルス感染症対策のため実施できない地域の行事や活動が多く、児童や職員が参加できない状況であったが、地域見守りや臨時休業、分散登校については連絡をとり、連携を図ることができた。	3.5			

